

## ワーグナー作曲《ピアノ独奏のためのポロネーズ ニ長調》WWV 23A の自筆譜

### ―初期作品の自筆譜研究―

小林 幸子

この論文は、ワーグナーが 10 代で作曲した《ピアノ独奏のためのポロネーズ ニ長調》WWV 23A の自筆譜に関する研究報告である。1970 年頃にこの自筆譜がマンチェスターで発見されたことに関するファーネス／ウォーカーの報告(1973)によって、当作品の存在が初めて広く知られることとなった。また、初期作品に関する先行研究は、現在のところ極めて限られている。以上のことから、同時代(初期)に書かれた自筆譜群の体裁を詳細に検証し、体系化した。その結果をふまえ、初期自筆譜群における当該資料の位置づけを行った。結果は以下の通りである。

ワーグナーの初期作品の自筆譜は、(1)スケッチや草稿といった下書き的な要素を持ったもの、(2)最終稿としての意味合いを持ったもの、(3)さらにはその中でも特に出版まで考えて書かれたものと、大きく3段階に分けることができる。それぞれの体裁は明確に異なり、いくつかの特徴を伴う。それに従って検討すると、《ピアノ独奏のためのポロネーズ》の自筆譜は、初期自筆譜群において次のような位置づけが可能となる。この自筆譜は、スケッチや草稿(いずれも現存せず)などの下書きの上に成り立っている清書的な意味合いを持つ最終稿ではあるが、他の作品における出版を意識して書かれた最終稿とは、タイトルページの存在や、楽譜開始ページにおけるタイトルの記入の有無、五線の引き方などに明らかな相違が見られる。さらに、当時、個人的に作曲の指導を受けていたクリスティアン・テオドール・ヴァインリヒ(1780-1842)によるとみられる書き込みがあること、そして姉の所有物の中からこの楽譜が発見されたという事実も含めて考察すると、出版までは意識せず、個人的な目的で書かれたものといえる。